

## 総務部

### 発信！沖縄文化

#### 「新庁舎落成記念イベント 「沖縄振興シンポジウム」」

##### Point

音楽、映画、演劇それぞれの分野において、沖縄県内外で活躍されている方々の講演とパネルディスカッション。沖縄の有する文化コンテンツの発展のための提言もありました。

沖縄総合事務局は、本年3月

24日から那覇市おもろまちの新庁舎に移転し、業務を開始しています。

この新庁舎の落成記念イベントとして、「発信！沖縄文化」をテーマにシンポジウムを開催しました。

##### 基調講演

うるま地域の中高校生が演じる現代版組踊「肝高の阿麻和利」の演出に携わる平田氏から、これまでの取組の紹介がありました。

平成11年、少人数の参加者で稽古をスタートした「肝高の阿麻和利」でしたが、地道で真摯な取組が共感・感動を呼び、多数の子供達、子供達をサポートする大人達が、それぞれの役割を果たすことによって、持続的に公演を重ね

ねているとのことでした。

また、平田氏は、自身が携わる舞台活動は、舞台を通しての「人づくり」であるとし、子供達が地域の英雄を演ずることによって、地域を学び、考える機会となると紹介していました。

##### パネルディスカッション

パネルディスカッションは、安里氏のコーディネートの下、「発信！沖縄文化」をテーマに行いました。

ディアマンテス・ボーカルの他、多方面で活躍中のシロマ氏は、相当の努力が必要との前提で、「沖縄でしか見ることができない、味わえないものをつくれれば、仕事が生まれる。このためには、昔のものを探り、新しいものを取り入れるチャンプルー精神が大事。」と語



パネリストの皆様（左から）  
アルベルト・シロマ氏（ディアマンテス・ボーカル）  
井手 裕一氏（株式会社シュガートレイン代表取締役）  
平田 大一氏（南島詩人／脚本・演出家）

りました。

沖縄県産映画を手がける琉球カウボーイフィルムス製作委員会の統括プロデューサーも務める井手氏は、東京中心の映画配給システムの中、「沖縄で映画を作り、沖縄にお金が落ちるシステムにしたい。そして、映像分野の人材が沖縄で活躍できる場所を作りたい。未体験だが、あきらめないで続けていく。」と抱負を語りました。

基調講演に引き続きパネリストとして参加した平田氏は、沖



全プログラム終了後に平田氏が「出発の朝（たびだちのあした）」を披露。（サプライズ！）

縄の文化コンテンツ（音楽、映画、演劇等）を宝の持ち腐れにしないためにも、地域おこしやビジネスにつなげるプロデューサーの育成も必要と提案しました。

パネルディスカッション終了後、場内参加者の大学生から、学生生活のアドバイスを求められ、パネリストの皆様から、ユ一モアを交えた熱いメッセージがありました。



コーディネータ  
安里香織氏  
（オフィスカリさら代表）